

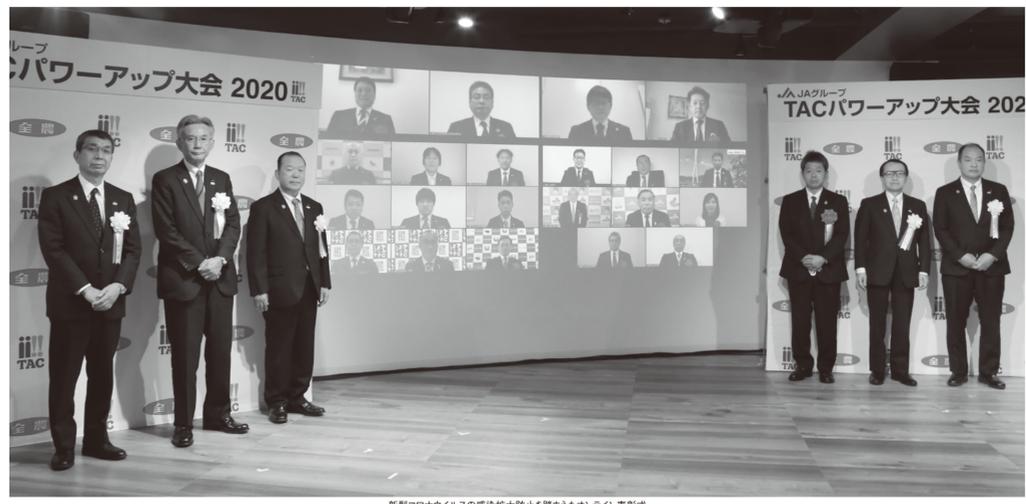


TAC パワーアップ大会 2020



J A 全農は1月14日、地域農業の担い手に向くJA担当者(愛称TACスタッフ)の活動成果を表彰し、共有するTACパワーアップ大会2020を開催しました。13回目となる今回は、新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、東京・大手町のアーバンチャイナから表彰式やJA表彰取組事例発表などの様子をYouTube

Liveにて全国に配信しました。各表彰は、JA表彰4JA、TACトップランナーズJA表彰2JA、TAC表彰9人、担い手向けTAC通信表彰2JAに贈られました。最優秀の全農会長賞は、最新スマート農業による高収益な水田輪作の実証などをを行ったJAぎふが受賞しました。



新型コロナウイルスの感染拡大防止を踏まえたオンライン表彰式



モニターに映した受賞者に賞状を読み上げる菅野会長

受賞したJAの代表者やTACなどの表彰者全員がリモートで参加

リモートで大会宣言を読み上げるJAおふなとの中村氏

TACパワーアップ大会は全国のTACの優良な取り組み事例や担い手に向く活動の中で得られた知見・情報を共有し、全国レベルでTAC同士のネットワーク強化や活動のさらなる躍進につなげるための場として2008年から開催されています。第13回目となる大会は、農業現場を取り巻く環境の変化や担い手ニーズの高度化・多様化をふまへ、(1)出向く体制の強化とJAの総合力の発揮、(2)環境変化に柔軟に対応するTAC活動の実践、(3)TACのネットワーク強化を大会テーマとし、本会場と受賞者をWebで接続し、大会の様子を視聴者にWeb配信しました。コロナ禍であることを踏まえ、Web開催となったものの、当日は、例年より多い約600人のTACが参加し、動画再生回数は約10000回にのぼりました。

菅野会長は、2019年度の活動として、全国235JAの1644人のTACが、約7万回の担い手に向け59万回の訪問活動を果たし、全国的に「現在コロナ禍においても、全国のTACは担い手と一緒、生産・販売の課題を共有し、解決に向けた活動の継続、質の向上に努力を続けています」と評価し、担い手のニーズが農業生産振興や経営相談にとどまらず、労働力不足の解消や事業承継支援など多様な専門化している現状に「TACには地域農業のコーディネーターの役割も期待されています」と、重要さが増すTACの活動を今後も最大限支援していくことを強調しました。

省経営局の大島英彦参事官は組合員の現場ニーズを受け止めて、それをJAの組織・事業運営に反映していくことは、まさにJAの事業活動のコアな部分。それを支えておられるのがTACの皆さんだと思います。日々の活動をたえず、そのうえで受賞事例については、全国のTACの模範となる取り組みをぜひ全国に周知いただき、JAの活動、日本の農業の発展につなげてほしい」と話しました。

また、近年課題となっている現場での労働力不足に対しては、JA無料職業紹介所による求職者とのマッチング支援や福祉事業所とのプロジェクトによるスマート農業の導入支援、営農管理システム「アグリ」や人口衛星センシング「天晴れ」を活用した営農計画や作物の生育状態の見える化への提案事例が紹介されました。

「農業分野で広がりを見せているICT技術の普及の取り組みに関して、行政などの関係機関とのプロジェクトによるスマート農業の導入支援、営農管理システム「アグリ」や人口衛星センシング「天晴れ」を活用した営農計画や作物の生育状態の見える化への提案事例が紹介されました。近年課題となっている現場での労働力不足に対しては、JA無料職業紹介所による求職者とのマッチング支援や福祉事業所とのプロジェクトによるスマート農業の導入支援、営農管理システム「アグリ」や人口衛星センシング「天晴れ」を活用した営農計画や作物の生育状態の見える化への提案事例が紹介されました。



JA表彰 全農会長賞

岐阜県 JAぎふ

水稲の直播栽培や小麦二毛作を組み合わせた3年5作体系の提案、関係機関と連携してスマート農業実証プロジェクトに取り組み、最新スマート農機の新規導入支援を行った。実証先で多収性品種「にじのきらめき」の作付けを提案し、多収名人コンテストを通じた栽培技術の共有や他県主産地JAとの連携による技術確立を図り、出荷量の増加や作付面積の拡大につなげた。求人情報の発信や就業マッチングなどの支援を通じて労働力を確保。集落営農組織や農業法人に「組織力向上プログラム」の導入を提案し、離職率の減少や事業承継促進に貢献した。



JA表彰

岩手県 JAいわて中央

モデル経営体に対して農家手取り最大化実践メニューを提案し、コスト低減や収量増大などに取り組み、所得向上につなげた。合わせて取り組み内容を管内担い手に周知し水平展開した。Z-GIS導入による圃場管理の提案やZ-BFM個別指導による営農計画の「見える化」支援、人工衛星センシング「天晴れ」の提案による生育状態の「見える化」支援で、圃場管理の効率化や栽培課題の明確化を図った。労働力確保に向け、求職者へのJA無料職業紹介所の活用提案や農業現場体験支援を行い、園芸品目の面積拡大にもつなげた。コロナ禍の状況において、労働力確保と仕事確保の課題を持つ担い手と観光業界との労働力マッチングを支援した。



JA表彰

岐阜県 JAにしみの

実需者ニーズに沿った米づくりに向け、安定需要が見込める業務用米「はしるし」の作付けと複数年買取り方式を提案した。JAとの結びつきが薄い担い手に対してはJA全農岐阜など連携して開発した基礎専用一発肥料も合わせて提案し、同品種の作付け拡大や販売先への安定供給につなげた。米・麦・大豆中心の経営体に対し、農閑期での加工業務用野菜の作付けを提案し、農機レンタル事業活用による生産コスト低減を支援した。水田経営では、高密度播種苗移植栽培や低コスト資材への切り替えを促し、生産コストの低減を実現した。



JA表彰

愛媛県 JAおちいまばり

特産である里芋の生産振興に向け、機械化一貫体系の提案や広域選果施設の活用促進、人材派遣会社との労働者派遣契約と農福連携による労働力確保支援を実施。面積拡大、労働削減、所得向上に結び付けた。遊休農地・耕作放棄地対策として、新規就農サポート事業を開始し、就農時には農地幹旋などの支援を行うことで、新規就農者の確保と産地維持につなげた。西日本豪雨災害からの復興では、農地再編後の農地利用計画の整備や新規就農希望者に対する圃地確保支援に取り組み、担い手の営農継続や新たな担い手の育成につなげた。

担い手向けTAC通信表彰

石川県 JA金沢市

【表彰式参加者】ふれあい推進部 ふれあい課 三原 千明氏

広報担当者がTACとともに現場へ向かい、TACの取り組みを第三者目線で捉えながら「チェックタック通信」を月1回発行している。通信では、農福連携や事業承継など毎回1つのテーマを掲げ、実例を具体的に紹介している。若い担い手にも関心をもってもらうため、通信内容をSNSやJA提供番組でも紹介している。

兵庫県 JAたじま

【表彰式参加者】営農生産部 水田農業振興課 副課長 上田 三千夫氏

担い手訪問時に農業に関する情報やタイムリーな話題を提供するため、毎月1回「TACたより」を作成し、配布を始めた。担い手への訪問目的が明確化し、会話により充実することで情報提供・収集が円滑になった。また、TACと支店長が同行訪問するなど、総合的なJAの事業提案を実施した。

TACトップランナーズ JA表彰

岩手県 JA新いわて

【表彰式参加者】TAC本部 岩手県本部 岩手県本部 岩手県本部

TACの本店設置やTAC月次会議の定例化、行政・県域との連携などTACの体制づくりを早期に取り組み継続して実践している。関係者間での情報共有の徹底により、時勢に応じて迅速かつ的確な担い手対応を実施し、担い手の経営改善や地域農業の活性化に大きく貢献した。

福岡県 JAふくおか八女

【表彰式参加者】JA本部 福岡県本部 福岡県本部

「法人の10年運営プラン」など関係機関と連携した経営改善支援方策の構築に取り組んでいる。現状の課題や5年、10年先のビジョンを明確にしながら、TACを中心とした事業間連携により、担い手の所得増大、産地拡大、新規就農支援など産地の活性化や経営改善に幅広く貢献した。

TAC表彰

岩手県 JAいわて花巻 葛巻 剛氏

担い手から「選ばれるJA」となるために、~個々の課題に対する細やかな提案~

圃場情報・作業記録管理の効率化を目的に、Z-GIS、ドローン、水田センサーの導入を提案し、情報の整理・更新や適期作業、作業時間の短縮や今後の事業承継に向けたデータ蓄積を支援した。ピーマン栽培の規模拡大ではJAの無料職業紹介所を活用した人員確保支援や金融部と連携した融資提案を行い、作付面積拡大や単位収量の向上に貢献した。

岩手県 JAおふなと 中村 明子氏

地力不足の復旧田における収量向上と労力軽減

地力が不足している復旧田での水稲増収を目的に、関係機関と連携した土壌診断とその結果に基づく品種ごとの施肥設計を行い、収量向上と労力軽減につなげた。圃場の管理・記録を徹底したい法人の要望に対して、Z-GISの導入提案と操作研修などのサポートを行った。加工品生産を行う法人に対し、適正な販売価格の設定から商談力向上に向けた専門家との連携など担い手農家の課題解決と商品販売ノウハウの習得につなげた。

岩手県 JAいわて平泉 菊地 俊郎氏

新規就農者等の確保・育成に向けた取り組み

新規就農者・研修者を重点とした訪問活動を行っており、親子就農で親とは異なる経営を希望する新規就農者に対して、品目選定や県事業の活用、部会への参加などを提案し、就農をサポートした。ぶどう栽培からワイン造りまでを志望するターン新規就農者には、市事業の活用提案による移住から研修、ぶどう栽培圃場の準備まで支援をした。

石川県 JA小松市 橋本 克巳氏

環境変化に対応した農業経営支援と労働力マッチングの実践

新型コロナウイルス感染症拡大で、農業経営に影響が出ている法人に対し、多様な補助事業メニューを経営体ごとに選定・提案。JA無料職業紹介所と連携して求人情報サイト「石川の農業で働こう」を活用して労働者の募集を行い、担い手の希望に即したマッチングを支援した。農業機械の新規導入では担い手の経営計画を作成し、資金調達や補助事業の提案による経営支援を行った。

石川県 JA石川かほく 櫻井 和幸氏

コロナに負けるな! 活気あるぶどう産地を目指して! 新たな販促への挑戦

新型コロナウイルス感染症の風評被害によるぶどうの単価下落や担い手の不安に対し、行政や「道の駅」と連携して地元消費者向けの出荷前予約販売を実施し、消費者へのPRと新たな販促活動に取り組んだ。高級果実の需要が減少する中、行政と連携してふさと納税の返礼品に採用されるよう働きかけ、担い手の所得向上や全国の消費者に対するブランドPRにつなげた。

愛知県 JA豊橋 古志野 瑞樹氏

JAの総合力を生かした経営支援で産地を守る! 端境期への対応とバック詰り作業の効率化によるミニトマト収支の改善

ミニトマトの収支が悪化している生産者を対象に経営診断を実施。3経営体を選定し、販売額の増加に向けた端境期への出荷やバック詰り作業の効率化を目的とした機械導入、さらに融資の提案を行い、所得向上・労働力削減につなげた。法人化を検討している経営体を対象にセミナーを開き、経営面での知識を深める機会を創出した。

滋賀県 JAおうみ富士 内藤 彰紀氏

複合経営による農家所得向上、多収米による農家所得向上

複合経営による水稲経営体の所得向上を目指し、利益係数の算出や価格の安定性を踏まえ白ネギの栽培を提案。労働力やコストなどを考慮した栽培計画も作成し、「守山ほたる葱」としてブランド化を進めた。担い手の経営状況に合った水稲多収性品種の選定・提案やJA全農しがと連携してコンでの受け入れ、早期引き取りの実施などにより担い手の課題解決につなげた。

鳥根県 JALまね 渡部 直樹氏

担い手が求める次世代へのバトン! 事業承継に向けた取り組み

法人の代表者の世代交代に向け、TACが親子の間に入り、「10年後の法人のビジョン」を息子とともに作成し、親に向けて提案した。地域農業の存続のため、法人の世代交代の必要性を相互で理解し、代表交代に結び付けた。TACシステムを活用して、担い手の長所や課題を蓄積し、SWOT分析で情報の分類・整理をし、JA内部での共有により担い手との信頼関係の継続につなげた。

鳥根県 JALまね 片寄 俊一氏

Tとことん、A会って、Cコンサルティング!! ~共に歩む法人設立と高収益作物の取り組み~

法人設立に向け、作業従事者の意向や機械所有の有無など情報の整理を行い、税理士などの専門家の斡旋や管内法人との連携による定款・内規の作成を支援。円滑な法人設立に寄与した。隣接する地区本部と連携してタマネギ栽培の体制づくりにも取り組み、高収益作物を経営の軌道に乗せるため、関係機関と連携してプロジェクトチームの立ち上げも支援した。